



『 がん検診について 』

いつも鹿児島厚生連病院 健康管理センターで、健診を受けていただき、ありがとうございます。

現在、日本では、がんの早期発見を目的とした「がん検診」と、心臓病や脳卒中の予防を目的とした「特定健診」とが行われていますが、今回は、特に女性の乳がん検診と子宮頸がん検診の国際比較についてお話ししましょう。

経済協力開発機構（OECD）に加盟している30カ国の検診受診率が2013年に公表されていますが、それによると、50歳～69歳までの乳がん検診受診率は、アメリカが80・4%、イギリスが72・6%、韓国が74・1%であるのに比べて、日本は36・4%で、とても低いレベルでした。

また、20歳～69歳までの子宮頸がん検診受診率は、アメリカが85・0%、イギリスが68・5%、韓国が68・7%であるのに比べて、日本は37・7%と、これもまた低いレベルでした。

日本では、病気が話題になると一時的に受診率が上がる傾向にありますが、乳がん、子宮頸がんに関してはこのような低い受診率が現実です。

これでは助かる命も助からない可能性が高くなるので一人でも多くの人が日頃から検診を受けて病気の早期発見に努めていただきたいと思います。



鹿児島厚生連病院
副院長兼
健康管理センター統括部長

宮原 広典